

# エネルギー起源CO<sub>2</sub>に関する 産業部門の現在までの排出量 及び関連データについて

# 産業部門における現在までの排出量 及び関連データについて

## ～目次～

1. CO<sub>2</sub>排出量の推移 (p.3~5)
- (1) 産業部門概況(電気・熱配分後)
  - (2) 産業部門概況(電気・熱配分前)
  - (3) 総合エネルギー統計の改訂による影響

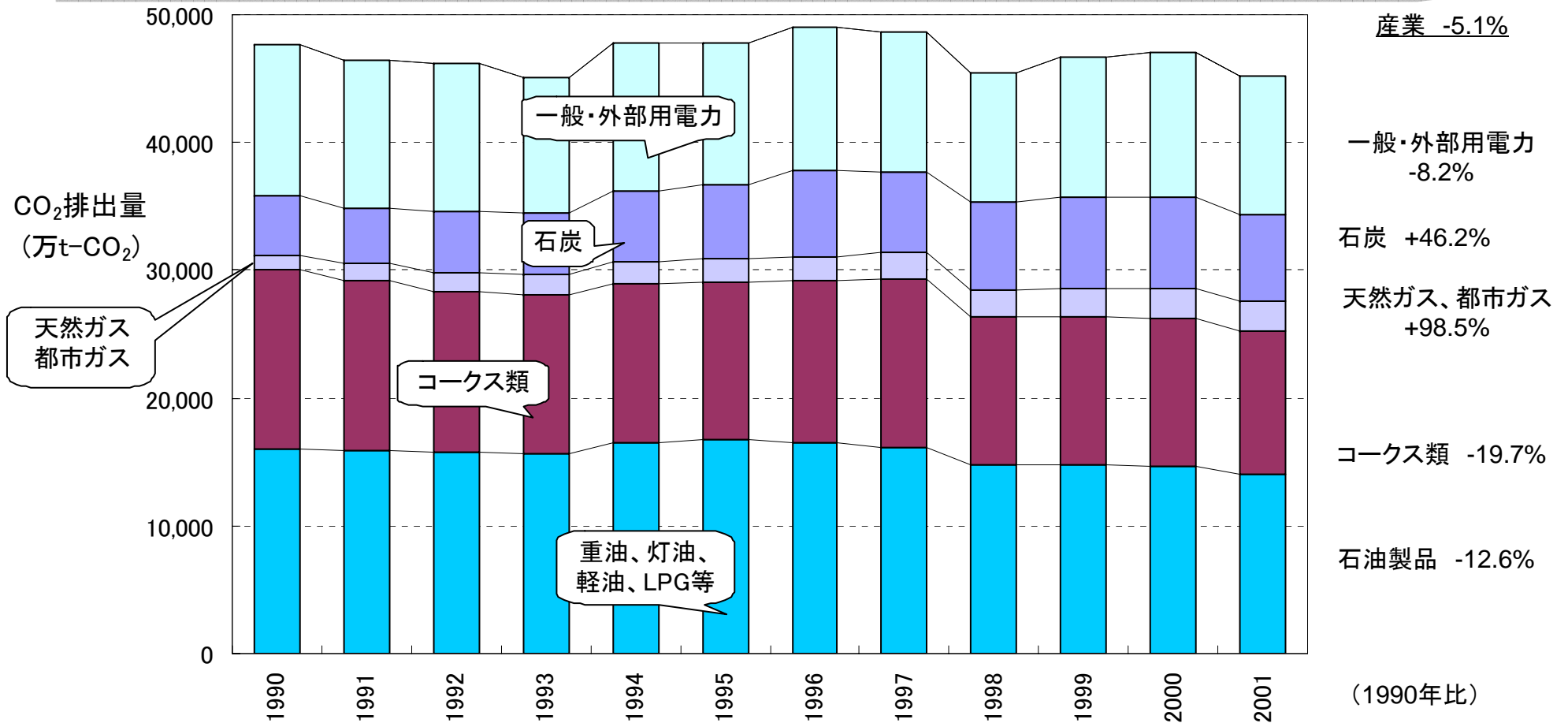
2. CO<sub>2</sub>排出量の増減要因 (p.6~7)
- (1) 鉱工業生産指数の減少
  - (2) 電力の発電端排出係数の減少

- (参考) (p.8)
- 事業活動全体からのCO<sub>2</sub>排出量

# 1. CO<sub>2</sub>排出量の推移

## (1) 産業部門概況(電気・熱配分後)

- 2001年の産業部門のエネルギー種別CO<sub>2</sub>排出量を見ると、一般・外部用電力、石油製品（重油、灯油、軽油、LPG等）、コークス類の消費に伴うCO<sub>2</sub>排出が約8割を占める。
- 1990年の排出量と比較すると、コークス類、石油製品が減少する一方、都市ガス、石炭の消費量が大幅に増加する傾向にある。



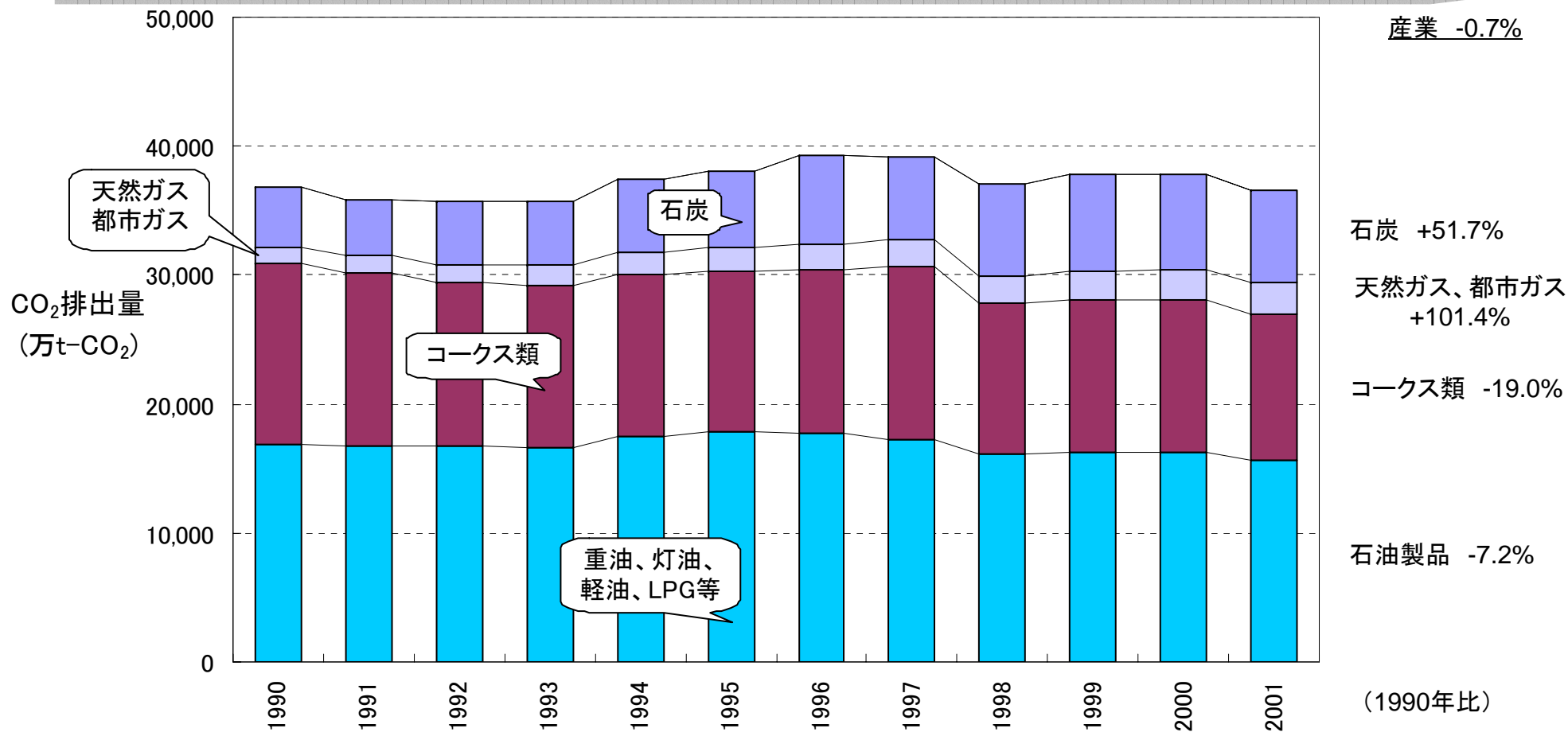
<出典>温室効果ガス排出・吸収目録より算定

※自家発電・産業用蒸気に伴う排出量を燃料種ごとに配分。また、自家発電のうち、売電された分は自家発電の燃料消費量の比に基づいて按分。

# 1. CO<sub>2</sub>排出量の推移

## (2) 産業部門概況(電気・熱配分前)

- 電気・熱配分前の産業部門のエネルギー種別CO<sub>2</sub>排出量を見ると、2001年度では石油製品（重油、灯油、軽油、LPG等）及びコークス類の消費に伴うCO<sub>2</sub>排出が約3/4を占める。
- 1990年の排出量と比較すると、コークス類が減少する一方、都市ガス、石炭の消費量が大幅に増加する傾向にある。



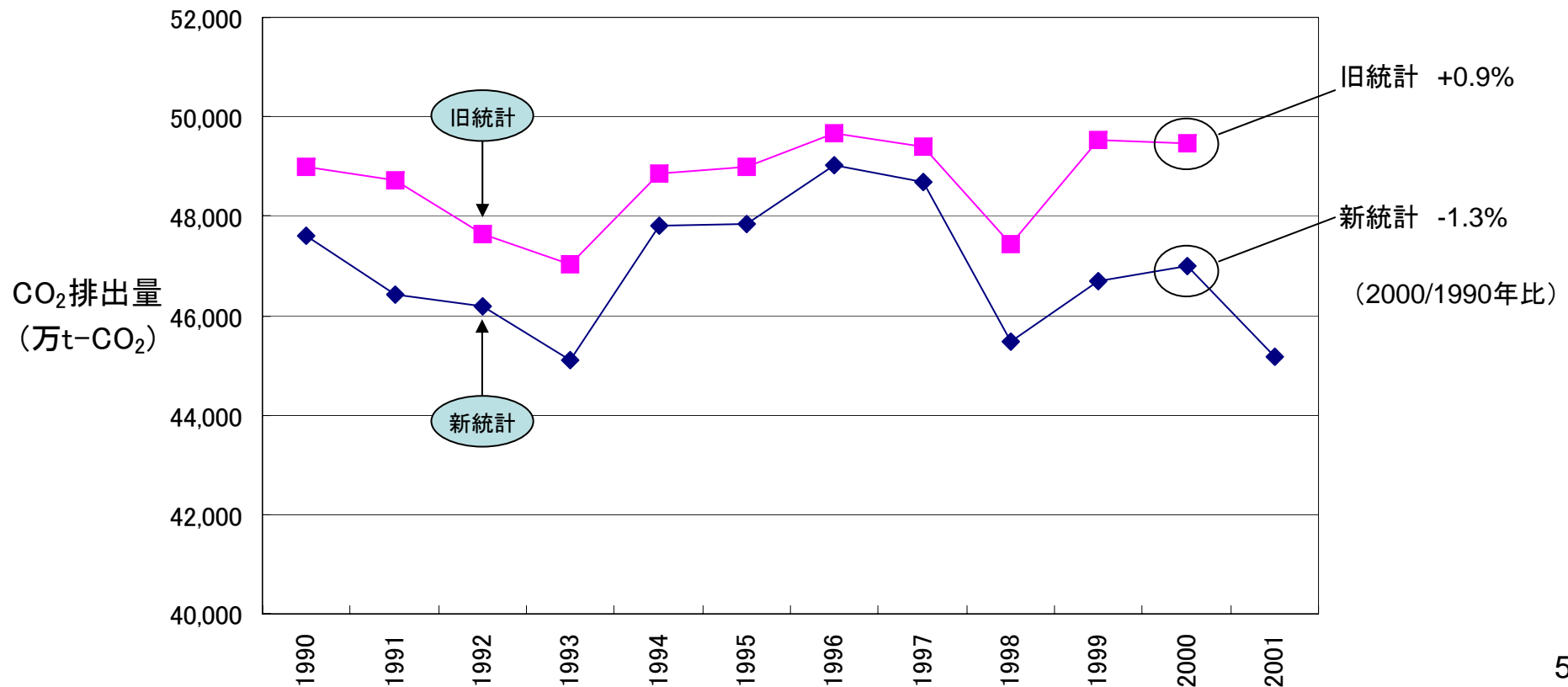
<出典>温室効果ガス排出・吸収目録より算定

※自家発電・産業用蒸気に伴う排出量を燃料種ごとに配分。

# 1. CO<sub>2</sub>排出量の推移

## (3) 総合エネルギー統計の改訂による影響(産業部門の総排出量)

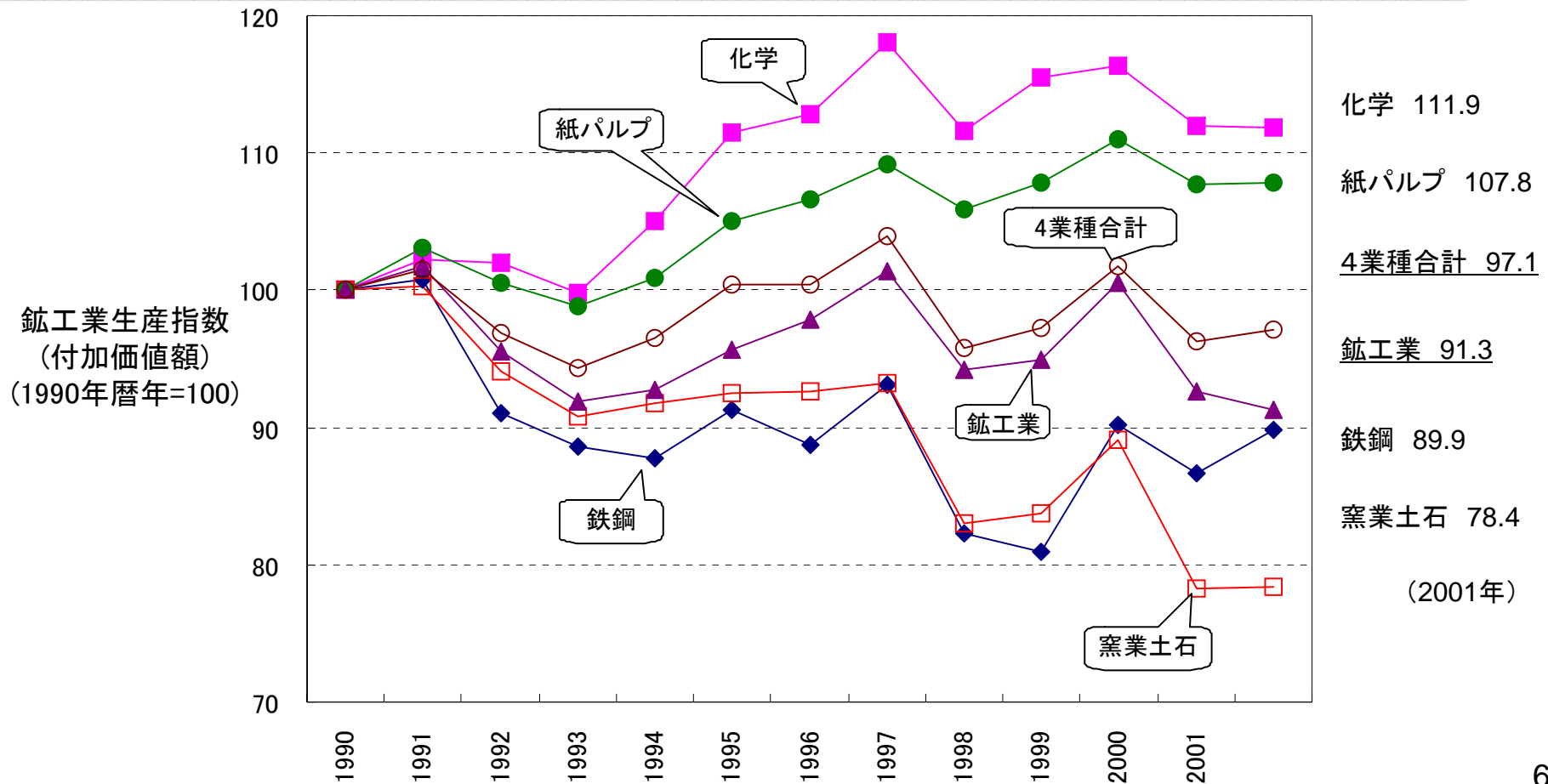
- 各部門のCO<sub>2</sub>排出量は、大綱作成時では旧総合エネルギー統計を基に算定を行ったが、平成15年度以降、過去に遡って改訂された新総合エネルギー統計を用いて算定している。
- 総合エネルギー統計の改訂に伴い、産業部門からの排出量に変化しており、新統計の1990年における排出量は旧統計を2.9%下回り、また、新統計の2000年の排出量は旧統計より5.0%小さい値を示した。
- 産業部門の2000年と1990年における排出量の比率をみると、旧統計では0.9%の増加(旧統計における1990年比)を示す一方、新統計では1.3%の減少(新統計における1990年比)を示した。



## 2. CO<sub>2</sub>排出量の増減要因

### (1) 鉱工業生産指数の減少

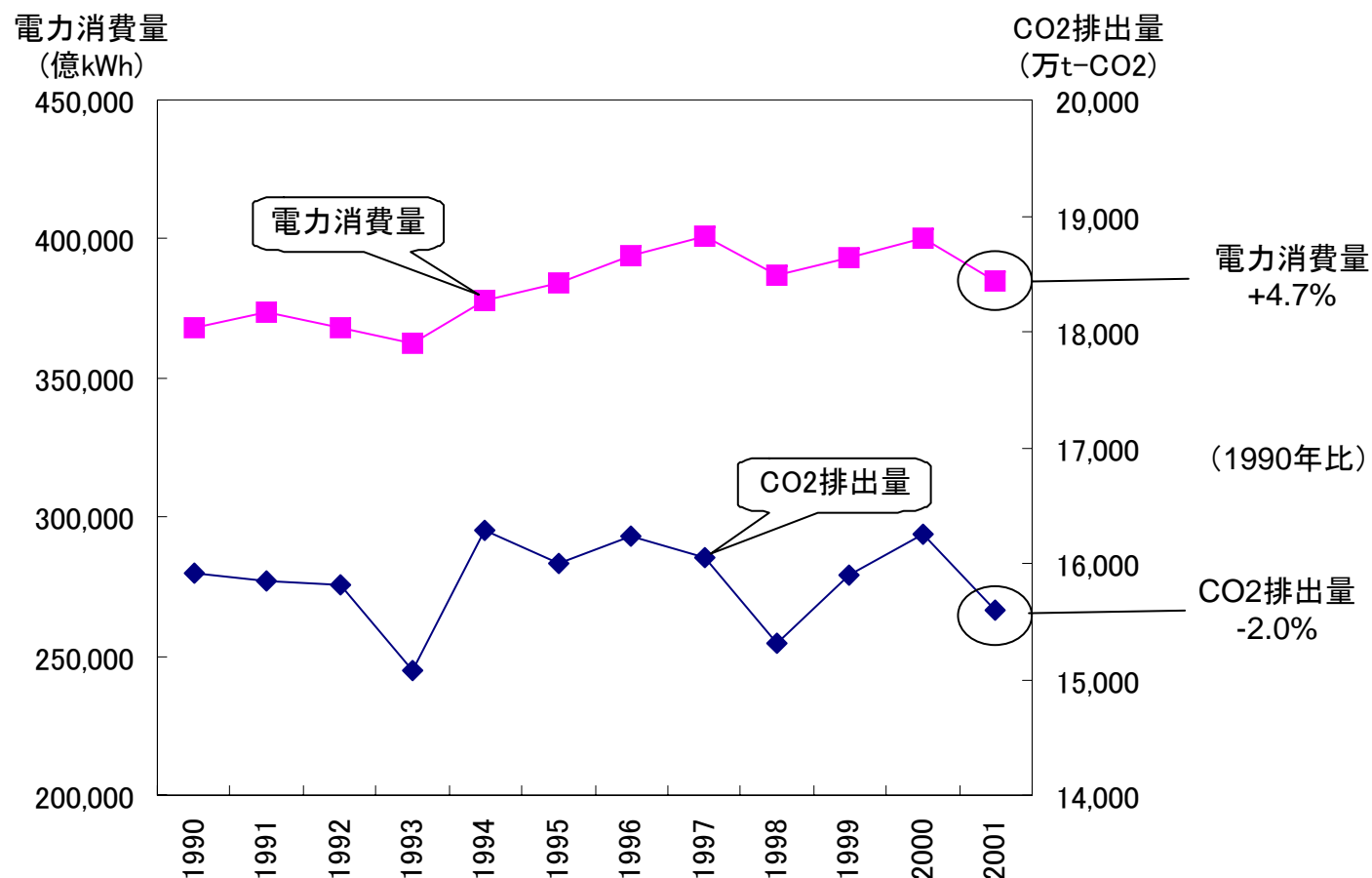
- 2001年の生産指数をみると、鉱工業全体で1990年と比べ8.7ポイント低下。
- エネルギー多消費産業（鉄鋼、化学、窯業土石、紙パルプ）の生産指数は、1990年と比べ2.9ポイント低下しており、鉱工業全体よりも低下量が少ない。



## 2. CO<sub>2</sub>排出量の増減要因

### (2) 電力の発電端排出係数の減少

- 産業部門における電力消費量を見ると、1990年比で4.7%増加している。
- 一方、電力の使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は2.0%減少しており、これは主に一般電気事業者のCO<sub>2</sub>排出係数が11.7%減少したことに起因している。



(参考)

## ○事業活動全体からのCO<sub>2</sub>排出量

○ 事業活動全体からのCO<sub>2</sub>排出量をみると、産業、エネ転、工業プロセスで減少する一方、業務その他、運輸（企業利用分）、産業廃棄物からの排出量が増加しており、全体として増加傾向にある。

